

事務事業名		雲南市シルバー人材センター補助事業		所属部	健康福祉部	所属課	健康福祉総務課			
総合計画体系	政策名	(Ⅲ) 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》		所属G	総務G	課長名	糸原 幸子			
	施策名	(22) 高齢者福祉の充実		担当者名	板持 徳生	電話番号	0854-40-1041 (内線) 2231			
	目的	対象	65歳以上の市民	意図	生きがいを持って、いきいきと暮らす。					
	基本事業名	(067) 社会参加活動の推進		予算科目	会計	款	大事業	大事業名		
目的	対象	65歳以上の市民	意図	地域とのつながりを持つ。		中事業	雲南市シルバー人材センター補助金			
				0	1	1	5	0	1	地域福祉総務管理事業
				0	5	2	0	7	6	中事業

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	
<input type="checkbox"/> 単年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
高年齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づき組織された雲南市シルバー人材センターが、就労の機会と場の提供を行うことにより、健康で豊かな老後の充実をはかり、地域社会づくりに寄与することを目的に取り組む事業、活動に対して補助を行う。その間接支援として、広報活動等の協力を行う。	

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	29年度実績(29年度に行った主な活動)	30年度計画(30年度に計画する主な活動)				
	・補助金交付	前年度と同じ。				
	・広報活動支援					
② 活動指標		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
ア	補助金額	千円	7,250	7,981	10,821	13,821
イ						
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)		③ 対象指標		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
	65歳以上の市民		ア	65歳以上の高齢者数	人	14,572	14,710	14,714	14,714
			イ	人材センター正会員数	人	370	373	391	440
			ウ						
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)		④ 成果指標		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
	生きがいを持って、いきいきと暮らす(高齢者が就労を通して、健康で豊かな老後を送れるようにする)。		ア	就業延人数	人	23,561	24,913	26,656	26,656
イ			就業率	%	90.5	89.2	91.6	91.6	
ウ			作業契約金額	千円	130,541	139,737	147,194	150,000	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)		② コストの推移		単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
事業運営に対する補助金:10,821千円 (国と同額)		事業費	財源内訳	千円				
			国庫支出金	千円				
			県支出金	千円				
			地方債	千円				
			その他	千円				
		一般財源	千円	7,250	7,981	10,821	13,821	
		事業費計(A)	千円	7,250	7,981	10,821	13,821	
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1			
	延べ業務時間	時間	10	15	20			
	人件費計(B)	千円	39	60	82			
トータルコスト(A)+(B)		千円	7,289	8,041	10,903			

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
高年齢者等の雇用の安定等に関する法律により事業を実施しており、平成25年度より公益社団法人へ移行された。国の補助金と同額を市町村が補助する仕組みであるが、厚生労働省の予算が年々拡大してきており、市の予算化が厳しい状況にある。	会員・就業機会の拡大につなげるため、広報誌掲載、文字放送の利用など、改善に取り組んでいる。	事業対象者からは、補助額(国の基準)を維持して欲しいとの意見が寄せられている。

事務事業名	雲南市シルバー人材センター補助事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康福祉総務課
-------	-------------------	-----	-------	-----	---------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	会員数の拡大及び就業機会の拡大により、成果の向上が期待できる。
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	他に同様な事業がない。	
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	補助の減額は事業運営に大きく影響することから、当面これ以上の削減は困難である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	補助金の交付事務が主であり、必要最小限度の業務量である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	高齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づく。高齢者福祉対策事業であり、受益者も多く公平・公正である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
		C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
		D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
		高齢化が進行する中、働く意欲のある高齢者の就労機会を提供することは、生きがいの創造や個人収入に繋がっており、今後も継続的な支援が必要である。	

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上	●																	
	維持		×																
	低下	×	×																
会員増強及び就業拡大につながるよう、可能な範囲での支援を行う。	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		